INTERVIEW

— メルマガ・みやぎ20周年記念特集 —

森井社長に伺う東北楽天ゴールデンイーグルスの20年とこれから

球団創設20年を迎えた、東北楽天ゴールデンイーグルス。
株式会社楽天野球団　森井誠之（まさゆき）代表取締役社長に
お話を伺いました。

Q1 2024シーズンを振り返ってください。

A1 20年という節目だったので、これまで関わってきた方々やOB選手と連絡を取り合う機会が多かったですね。もう一度みんなで盛り上げていこうという雰囲気が生まれ、次の20年に向けてすごく大きな財産になったと思います。交流戦初優勝も、20年という節目に花を添える大きな出来事でした。

Q2 この20年間で印象に残っている出来事・エピソードを教えてください。

A2 まずは、仙台を本拠地とした球団が宮城にできたということです。球場も、ユニフォームも、人も、事務所もないゼロからのスタートでした。県民の皆さまの協力なしでは絶対にできなかったですね。振り返れば振り返るほどすごいことだったと思います。
そして、東日本大震災。発災当時、私たちにできることは何かと考え、非常用電源を使用して携帯電話を充電できる場所を設け、職員全員で対応しました。球場という場所が、県民の皆さまに少しでも寄り添える場所として存在できたことは大きな意義があったと思っています。

Q3 森井社長の熱い思いを聞かせてください。

A3 プロスポーツが果たす役割を我々も自問自答しながら取り組んでいます。非常事態時に一番必要なものは、インフラや物資であり、その段階ではプロスポーツは必要なものではありません。しかし、徐々に回復していく過程で、喜び、生きがいというものを見つけたくなるのが人間で、その役目を果たせるのがプロスポーツだと思っています。
昨年は、サヨナラ勝ち目前で地鳴りのような応援の場面が何度もありました。あの熱狂を体感したら誰もが「また行きたい」と感じるはずです。そうした空間を作り出すことが、我々の使命だと感じています。昨年はクライマックスシリーズへの進出を逃し、悔しい思いをしましたが、次こそは宮城であの熱狂を味わっていただきたいです。
2013年の日本一以降、ファンの皆さんも10年分のフラストレーションがたまっていると思いますので、それが爆発したら、きっと球場の歓声が仙台駅まで響くほどの盛り上がりになると思いますね。

Q4 今後の目標を教えてください。

A4 目標は優勝です。選手にも、絶対優勝するんだと普段から言い続けています。そしてお客さまにいっぱい入っていただくこと。これも、すごく重要なことだと思っています。昨年は一昨年に比べて、30万人ほど増え、多くのお客さまに来ていただきました。そういったファンの方々にも、また行きたいと思っていただける球場づくり、チームづくり、環境づくりをしていきたいと思います。

Q5 最後に県民の皆さんにメッセージをお願いします！

A5 県内にはプロスポーツチームが4つもあります。
全国に12球団しかないプロ野球チームの一つが宮城にある。これは、ぜひ誇りに思っていただきたいですし、そのためにも、みんなに自慢できるチームとスタジアムにしていきたいと思います。アットホームなチームと思ってもらえるような雰囲気を作っていきます。ぜひお気軽に球場に遊びに来てください。

株式会社楽天野球団　代表取締役社長　森井 誠之さん

2007年1月　株式会社楽天野球団　入社
2013年3月　同上　執行役員営業部長
2018年2月　楽天ヴィッセル神戸株式会社　事業本部長
2019年7月　同上　取締役副社長　執行役員事業本部長
2022年3月　楽天グループ株式会社　退職
2022年7月　株式会社仙台89ERS　代表取締役会長
2023年8月　現職

取材後記 本インタビューは、「メルマガ・みやぎ」の20周年記念特集として、同じく、20周年を迎えた東北楽天ゴールデンイーグルスの森井社長にお話を伺いました。
インタビュー中、森井社長が、東北楽天ゴールデンイーグルス、ひいてはプロスポーツにとても熱い思いを持たれている方だということを強く実感しました。
森井社長の言葉にもあるように、ファンとしても目標は「優勝」。球場の声が仙台駅まで届く日が来ることを信じています！

CHECK!

メルマガ1040号でもインタビュー記事を掲載しています！